第 2014-30 号

恵みと真理のニュース

2014 年 7 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　全ての家族が信仰と愛と希望で一つになさせてくださり時によって助ける恵みを与える神様に感謝します。

私の父親は北朝鮮のピョンアン北度のショチョン出身で早くキリストが広がれた地域なので子供の頃から神様を信じました。母が早く亡くなり父は経済的に大変でした。私は神様の存在は認識していながらも父に題する恨みで青少年になってからは教会を通わなかったです。父はソウルからブチョンにある教会に通い熱心に昼夜も祈って聖書も百回読むほ篤実な信者でした。ある日、父は高血圧で倒れてしまいました。結婚して二番目の子供を妊娠していた私は父に何も助けることができませんでした。そんな商況で隣の家で住む区域長は父のため一緒に祈ろうと私を教会を導きました。礼拝の時間ずっと涙を流しました。神様が私を愛し忘れなく呼んでくださった事を分かりました。その後、父は体が回復され熱心に信仰生活をしながら 4 年後また体の調子が悪くなり救急車に乗せられ病院に行きました。すると、父はもう安からに天国に行けるように神様に祈ったら本当に祈りの通りその日の夜苦痛もなく、安らかな顔をして天国に召されました。
生涯を終える瞬間まで熱心に祈った父の姿を見て感化を受けて、天国に対する希望をもって一生懸命に信仰生活をするようになりました。
大学を卒業してすぐ結婚しましたが、旦那は優しくて心が温かい人でしたが信仰がありませんでした。私と二人の娘が切に祈って神様の恵みで旦那も主を受け入れて一緒に教会に通うようになりました。どころが旦那は信仰が成長する前に担えられない試練が来ました。旦那が 35 歳のとき糖尿病になりました。旦那は以後も長い間、自分の体をよく気を使わなかったです。そうするうちに旦那が離職して長いあいだ失職し経済的な苦難まで重なりました。私一人で家計を支えのが大変で一時期、旦那を恨む心もありました。
しかし、礼拝するときに説教で恵みを受け旦那を恨んだことを悔い改めました。“苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを”神様の約束の御言葉を考えながら祈り神様が下さる私の十字架だと思いました。
旦那は糖尿病の合併症で慢性腎不全症なり透析をしなければならないくらい重い病気でした。私の夫婦は生きて折られる神様だけ仰ぎました。旦那は切に神様に癒しを求めながら頑張って礼拝を捧げ神様を強く信じるようになりました。神様は私達の家族にどんな状況でも揺れない信仰をくださいました。そればかりでなく旦那に安手執事の職分も下さり、弱い体ですが感謝する心で教会を仕えるように恵みもくださいました。私と二人の娘と共に聖歌隊で奉仕しています。体の状態は良くなったり悪化されたりしますが落胆しなくて食療法をしながら家族のために一生懸命に働いています。
“主よ、あなたがいやしてくださるなら／わたしはいやされます。あなたが救ってくださるなら／わたしは救われます。あなたをこそ、わたしはたたえます。”（エレミヤ 17：14）アーメン
今日も私の全ての家族が主とラパの神様、治療の神様を仰ぎ休まずに祈ります。旦那の体が回復されるその日を望み期待しながら生活しています。
長女が 3 歳の頃、サンボンからヨンインに引越しした後、教会が遠くなり二番目の子が幼かったから一時期教会を通えなかったです。
そうするうちにある日長女が“母、家の後ろにある教会へ私を連れて行ってください。”と言いました。毎週ごとに教会学校の先生をついて熱心に教会を通い特にクリスマス時、娘がきれいな賛美と振り付けをする姿を見ると少し信仰生活を休んだ私が恥ずかしかったです。その後、感謝する事は家の近くに恵みと真理教会聖殿が出来たことです。新しい聖殿で教会学校の余地部の教師として奉仕し子供達の信仰がきれいで尊い事を悟りました。それでいくら生活が大変でも子供達が熱心に礼拝を捧げきれいに賛美を捧げる姿を見ると大きい慰めと力になりました。
長女が中学校 3 年生の頃、舞踊先生から長女が踊りに才能があるので舞踊を専攻させようと勧めました。しかし、当時には経済的に苦しい状況でしたのですぐ決断できなくて神様の御心と摂理を求めながら祈りました。娘は中学校の時から聖歌隊でフルートの演奏で奉仕していました。神様は娘に様々な才能を下さって専攻を決める事は難しかったです。共に神様に委ねて祈った後決断をおろしました。神様の摂理で娘は舞踊科に入学しました。
“またヤベツがイスラエルの神に、「どうかわたしを祝福して、わたしの領土を広げ、御手がわたしと共にあって災いからわたしを守り、苦しみを遠ざけてください」と祈ると、神はこの求めを聞き入れられた。”（ 歴代志上一　4：10）この御言葉が娘の祈りになり厳しく練習をしてヘルニアで苦労しながらも教会で熱心に奉仕する一方、大会に出るたびに神様が大胆さと能力を与えてくださいました。経済的に大変でも時ごとに助けてくださる神様は娘に大学の進学の夢も成し遂げてくださいました。感謝際の賛美行事の時、大学生になった娘が舞踊で神様に栄光を捧げ聖徒から大きい拍手を受けられたとき私達の夫婦は心がちんとしました。
長女に気にする間いつも気の毒で気にかかった二番目の娘も神様が守ってくださり健康できれいに育てられました。教会学校で役員にもなり聖歌隊員で熱心に奉仕し、今は大学生になって中高等部の教師として献身しています。二人の娘も青年部の活動と教会を仕えることに頑張っています。
海外宣教の時ごとに親に負担をならないように密かにアルバイトもして奨学金をもらえるため熱心に勉強する顔を見ると気の毒でしたが、一方子供の頃から信仰と希望の人生を生きるようにしてくださり足りない私達の夫婦の変わりに見守ってくださり道を導いてくださる神様に感謝します。
健康と財物と世の何であれ変えられない救いを全ての家族に下って、恵みを下さり家庭をまともな信仰と愛の家庭で立たせる神様に感謝と賛美を捧げます。
“ 何よりもまず,　神の 国と 神の 義を 求めなさい. そうすれば,　これらのものはみな 加えて 與えられる”（マタイの福音書 6：33）この御言葉が今日の私の証であり信仰の告白です。ハレルヤ！

［信仰コラム］　キリストとするイエスをどうするはずがあろうか

″…キリストとするキリストを私がどうすると私たちがさらに大声で曰く十字架に謳われなければならないだろう″(マ27:21~23)

″キリストとするキリストを私がどうする？″とこの質問は総督ヴィッラもがイエスを告訴したユダヤ人に向かって質問だったが、広い意味ではすべての人生に該当する質問です。神様、当時の人々がキリストであるイエスについてどうしたのかを見ることでキリストであるイエスに対する態度をみて決定した重大さを新たに認識するようにします。
まず、イエスの弟子になろうとはられた人たちがキリストであるイエスについてどうしたのかをご覧ください。一度はイエスが永生にする餅についてお話するとその話によって弟子たちの間に論争が起こりました。彼らはイエスが言った話しに露骨的な拒否して、多くの人がイエスから去ってしまいました。聖書の教えを人間の頭脳と解釈しようとすれば、イエスをキリストと信じられません。神様のほかにもキリストがいるという話をする者たちと手を取り合うことになります。このような決定は自分の魂を破滅させることです。
次は、ユダがどうであったかをご覧ください。彼が、イエスを売り渡した原因は、貪欲なからです。神様に仕えを対象に見ないで、自分の願いを叶えるための手段として見れば、このような行動をすることになります。神様を自己中心に仕えさせようとすれば、必ず弊害が発生するようになります。ユダは 12 弟子の一つに呼ばれた者でした。しかし、キリストであるイエスについてどうするのかについて誤った決定によって天の国で 12 補佐に座るようになる恩と栄光を失った者がなって地獄に入りました。
次は、ペトロをはじめとする弟子たちがどうであったかを見てみます。神様が逮捕されと弟子たちはみんな逃亡しました。神様に″全部捨てても私は捨てません、監獄にも行って死んでも行きます。″としたペトロはイエスの面前で、イエスを知らないと 3 度も否定しました。しかし、彼らが意図的にそうしたのではないでした。恐怖におびえてそのような行動しました。″ 鶏が鳴く前、あなたが 3 度私を否定できるだろう。″したイエス様の言葉が思い出したペトロは、外に出てひどく号泣しました。結局、ペトロと弟子たちはイエスへ戻ってきており、キリストであるイエスを愛して仕えることに決定しました。はたして彼らは命をかけて福音を伝える、皆天国に行きました。
次は、ユダヤの宗教指導者たちと総督ヴィッラもがどうであったかをご覧ください。ユダヤ最高議会サンヘドリンの構成員である 大祭司と民の長老たちは、イエスを逮捕してきびしい尋問などをしました。神様を死刑に処すように浄罪しました。しかし、彼らに死刑判決と執行権がなかったために、イエスを総督ヴィッラもに渡し、ローマに対する反逆罪で告訴しました。ヴィッラもは、キリストを信じてキリストをために働ける機会を得たことにもかかわらず、イエスを処刑する判決をくだす決定をしました。彼は地獄刑罰を免れなくなってしまいました。
次は、十字架を背負られなかった両強盗がどのように行動したかを見てみます。十字架にかかったある強度は、イエスを誹謗する発言をしました。その時違うた強盗は彼を指摘して″イエス、あなたが神様の国に入ったときに私を記憶してください。″としました。そして数時間後、強度 2 人の魂はそれぞれ、他の世界に行きました。イエスを批判した強盗は地獄に、他のた強盗は楽園に行きました。・キリストであるイエスについてどうしていくか、それは滅亡、天国と地獄の中でどの一本を選ぶことになります。
私たちの一生に様々なすべての決定を合わせても比較できない非常に重大な決定が、一つあります。それはキリストであるイエスを僕がどうしていくか、ということです。私の救世主と信じて迎接するのか、それとも拒否するのかという決定です。この決定は、各人の一生だけでなく、永遠にまで影響を及ぼすことにします。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

イエスキリスト再臨のしるし

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人が持つ知識の中で最高の知識はイエスキリストが分かる知識です．その中でイエスキリストの初臨と再臨に対する知識が中心軸になります．イエス様の初臨と再臨は人類歴史で一番重大な事件です．この二つの事件の及ぶ影響は全人類に例外なしに及ぶからです．だからこの二つの事件に対する知識よりもっと貴重なことはないです．イエス様の初臨と再臨の真意を聖書どおり信じない人は真のクリスチャンではないです．他に言って救いを得ることができないです．先週の間にイエス様の初臨と再臨が私たちの人生たちにどんな意味があるかをよく見て再臨のしるしに対するイエスキリストのお言葉であるマタイによる福音書，24 章 1 節から 14 節までよく見ました．今日は相次いで記録された 15 節以下に予言された再臨のしるしに関してよく見ます．

先に、15 節から 22 節まで記録された予言をよく見ます．

“預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりるな。畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。その時には、世の初めから現在に至るまで、かつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう。しかし、選民のためには、その期間が縮められるであろう。”

滅亡の荒らす憎むべきことと言うのは偶像と偶像崇拝に関したものなどに対して使われました．聖殿は神様に聖なる祭祀と礼拝が差し上げられる所であり，聖なる神様の光栄と能力が臨在する所です．ところで聖殿に偶像が立てられるということは神聖冒涜として想像もできない事です．歴史的にエルサレム聖殿で神聖冒涜の事件が発生したことが何回あります．第一は，BC 168 年スリアのセルリュコス王朝の 8 代の治者であったアンデーオクスエピパネスがエルサレムを占領してセウス像を設置して律法で 憎むべきの豚をお供えで祭祀を差し上げた事があります．二番目は，ローマがエルサレムをかこんだＡＤ66 年そして完全に滅亡させた 70 年にローマのデートス将軍が聖殿を占拠してはげたか文様が描かれたローマ皇帝の旗をさしました．この二つの事件はこれから世の中終末の時に神様の神神しさを大きく不名誉にさせる事件があることで予告する意味を持ちます．イエス様はおっしゃるのをそんな事が起こることを見たらそのままとどまっていずに積極的に身を避けて危機を免れなさいと言いました．神様が患難の日々を縮めてくれなければ生き残る者がいなくなると言いました．神様の審判に近付く患難が極甚だがそんな中にも神様の慈悲が現われています．その患難の期間を縮めてくださるというのです．

次は、23 節から 27 節まで記録された予言をよく見ます．

“そのとき、だれかがあなたがたに『見よ、ここにキリストがいる』、また、『あそこにいる』と言っても、それを信じるな。にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。見よ、あなたがたに前もって言っておく。だから、人々が『見よ、彼は荒野にいる』と言っても、出て行くな。また『見よ、へやの中にいる』と言っても、信じるな。ちょうど、いなずまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。” 患難が近づけば人々は救われる方を捜すものと決まっています．このような人々の心理を利用してにせ予言者たちが諸所でキリストがここにいる惑うと言いました．患難後に再臨なさるイエス様の姿は全地球上で同時に見られる聖書に記録されました．だから異端の邪説に惑いされずに聖書どおりまたいらっしゃるキリストを待たなければなりません．

次は、28 節に記録された予言をよく見ます．

“死体のあるところには、はげたかが集まるものである。”と記録されています．はげたかたちが集まるということは多くの人の死を意味します．この予言は一方ではエルサレムの滅亡に係るお話で他の一方はイエス様の再臨の直前にある大きい患難の中に多い人が死ぬようになることを意味します．

次は、29 節に記録された予言をよく見ます．

“しかし、その時に起る患難の後、たちまち日は暗くなり、月はその光を放つことをやめ、星は天から落ち、天体は揺り動かされるであろう。” 大患乱後に起きる天体の大変な事とサタンの状態の変化に対する予言です．日が暗くなって月が光を出さないと言いました．サタンは天の中の権勢を取った者として自分の命令を遂行する悪霊たちを巧みに統率しています．そして人々を惑って偶像を仕えるようにして，キリストの光栄の福音の光彩が照らさないように妨げます．終末の時に天に戦争があるようになります．天使長ミがエルと彼の使者たちがサタンと彼の使者たちに連れて争う霊的宇宙戦争です．サタンと彼の使者たちは天使長ミがエルを勝つことができなくて天から地上に 追い出してしまいます．

次は、30 節に記録された予言をよく見ます．

“そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。” イエス様の初臨の時と再臨の時の様相はとても違います．初臨の時はあがないの使役を成そうと世の中へいらっしゃって苦難を受けられました．再臨の時には世の中と悪魔を審判なさろうといらっしゃいます．

次は、31 節に記録された予言をよく見ます．

“また、彼は大いなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう。”．イエス様が再臨なさる時に大きいラッパ音がして天使たちが下って神様の選ぶことを受けた人をイエス様に集めるでしょう．

次は、32 節、33 節に記録された予言をよく見ます．

“いちじくの木からこの譬を学びなさい。その枝が柔らかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。そのように、すべてこれらのことを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。” 自然界と歴史を注意深く察して神様が予告した終末に関するしるしたちが現われて成り立つことを見ればイエス様の再臨が身近に近付いたことを分かるというお話です．

次は、34 節に記録された予言をよく見ます．

“よく聞いておきなさい。これらの事が、ことごとく起るまでは、この時代は滅びることがない。” イエス様のこの予言でこの世代は一次的にエルサレム滅亡直前に暮した人を意味します．果してその世代人々はエルサレムの滅亡を見るようになりました．二次的にこの世代はイエス様の再臨直前に暮している人々を示します．彼らは予言されたしるしたちがすべて成り立ったことを見るようになる世代です．

終りに、35 節に記録された予言をよく見ます．

“天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。”．愚鈍な人間はイエス様の予言を聞いてからもそんな事は起こらないと言います．ペテロの第二の手紙で 3 章にこんなに描写されています．**″しかし、主の日は盗人のように襲って来る。その日には、天は大音響をたてて消え去り、天体は焼けてくずれ、地とその上に造り出されたものも、みな焼きつくされるであろう。このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。その日には、天は燃えくずれ天体は焼けうせてしまう。しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる。.″（ペテロの第二の手紙，3 :10,12,13）**

ヨハネの黙示録，21 章 1 節に ″わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。 ″としました．天と地を大掃除した後新しい天と新しい地が渡来するようになさいます．新しい天と新しい地にはイエス様を信じて義のあるようになった者だけが住むようになります．イエス様は天地を建てた神様です．**ヨハネによる福音書，1 章 3 節にイエス様に対して記録するのを ″すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。 ″**と言いました．

私たちが詳考した予言は天地万物を創造したイエスキリストがおっしゃった言葉です．多くの予言が先日成り立ったし残り予言たちも必ず成り立ちます．イエス様の再臨に対する所望は真実の心でイエス様を信じる人だけが持つようになる所望です．**“天地は滅びるであろう。しかしわたしの言葉は滅びることがない。”**．この言葉を信じる皆さんはイエス様の再臨を切に慕って所望が一杯な心で生きて行くように願いします．